

【別紙様式3】

再評価実施事業調書

番号	2	事業名	社会資本整備 総合交付金（道路事業）		路線又は箇所名等		主要地方道成東酒々井線 八街バイパス		
事業所管課		道路整備課		事業主体		千葉県			
事業化年度	平成 5年度	用地着手年度	平成 7年度	工事着手年度 工事終了(認可)年度	平成25年度 平成35年度	再評価の理由	再評価		
費用便益比 B/C	1.2 (11.2)	総費用	56億円 (6億円)	総便益	69億円 (69億円)	基準年	平成 26年度	供用開始 年度	平成 35年度

※上段：全体事業 下段（ ）：残事業

【事業概要】

（目的）

八街市街地は、国道409号、千葉八街横芝線、成東酒々井線などの幹線道路が集中しており、慢性的な交通混雑が発生している。

当該事業は、八街市街地の交通集中箇所を回避するためのバイパス（L=1.7km）を整備するものであり、市街地に流入する通過交通の分散を図り、交通混雑の緩和、歩行者の安全を図ることを目的としています。

【事業の進捗状況】（平成26年度末見込み）

	全体計画	投資事業費	残事業費	進捗率
事業費（億円）	44.0	37.6	6.4	85.5%
うち用地補償費	32.4	30.9	1.5	95.4%
うち工事費	11.6	6.7	4.9	57.8%

【社会経済情勢等】

八街市中心部は、交通が集中しやすい道路網であり、大型車の通過交通が多く流入しているため、八街十字路や五区交差点が国の主要渋滞箇所に指定されている。そのため、特に朝夕中心に、これらの交差点を先頭に渋滞が発生しており、快適な生活環境や活力ある経済活動を阻害するものであり、交通渋滞の緩和・解消が求められている。

当該事業の起点から終点までの現道部では、平成20年から平成24年までの5年間で、年平均15件の事故が発生しており、これらの交通事故の削減が求められている。

当該事業の現道を含めた周辺道路は、通学路に指定されているが、歩道が狭く、また大型車の交通が多いことから、通学児童・生徒をはじめとした歩行者の安全性の向上が求められている。

【対応方針（案）】 継続

費用便益比（B/C）は1.2（残事業費11.2）であり、費用対効果が見込まれる。整備効果として、交通の転換による走行時間短縮及び渋滞緩和、緊急車両の移動時間短縮による医療機関へのアクセス性向上、通学児童等の歩行者及び自転車利用者の安全性の向上が期待されることから、早期供用に向け事業を継続したい。

【別紙様式 4】

